

第47回コンピュータ会計能力検定試験 問題用紙

1 級

(令和5年12月9日施行)

問題用紙は回収します。持ち帰り厳禁です。

CD-ROM は持ち帰りできます。

解答用紙は、問題用紙にはさみ込んでありますので、試験担当者の指示にしたがって、抜き取ってください。

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験問題は、全部で5ページです。
- ・この試験の制限時間は2時間です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の所定の位置に、試験会場、氏名、受験番号を必ず記入してください。記入もれがある場合には採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、パソコン機器の不具合等で必要のある場合は手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・試験開始後、問題の指示にしたがって、CD-ROM に保存されている会計データをパソコンにリストアしたり、Excel シートを開いてから処理をおこなってください。
- ・電卓の使用を認めます。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省

資金管理

第1問 ゼンケイ興産株式会社では、*1年度下半期（10月1日～3月31日）の月別予算資金繰り表を作成する。いま、予測資料にもとづき、原案を作成している。Excelファイル「EX1」の月別予算資金繰り表を完成し、下記の設問に答えなさい。（20点）

<付記事項>

1. 各月における現金収支に関わる項目（予測）は下表のとおりである。

（単位：円）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
売上高	76,519,000	62,445,000	74,169,000	96,814,000	71,466,000	89,393,000
仕入高	39,092,000	45,714,000	45,450,000	50,708,000	41,347,000	47,349,000
人件費	9,588,000	8,943,000	13,247,000	9,250,000	7,067,000	8,103,000
営業経費	18,930,000	20,611,000	21,500,000	23,259,000	17,819,000	24,693,000
有価証券売却	680,500	650,000	797,100	539,200	686,600	703,000
備品購入額	1,000,000	3,500,000	0	2,800,000	0	2,500,000
短期借入	3,936,000	3,807,000	9,352,000	3,090,000	2,286,000	4,415,000
借入金返済	2,628,000	2,121,000	6,683,000	3,296,000	6,383,000	7,081,000
支払利息	58,500	57,600	102,600	60,800	56,400	101,200
売掛金/売上高	48%	56%	51%	45%	46%	40%
買掛金/仕入高	49%	47%	46%	48%	50%	41%

2. 売掛金は翌月回収、買掛金は翌月支払であり、表の下2行は、各々の月の売上高に占める掛売上の割合、仕入高に占める掛仕入の割合を示している。10月分の回収額・支払額についてはExcelファイル「EX1」の月別予算資金繰り表シートに入力済みである。
3. 営業経費は現金支出のみである。
4. 10月の月初現金残高は、7,468,000円である。

<設問>

以下1～5について解答欄に記入しなさい。

- 10月の経常収支過不足額。
- 経常収支過不足が不足となるのは何月か。該当する月をすべて答えなさい。
- 設備等収支過不足、財務収支過不足がともに不足となるのは何月か。該当する月をすべて答えなさい。
- 2月の収支過不足合計。
- 3月末の現金残高。

製 造 原 価

第2問 クラテ工業株式会社では、工場用部品を製造・販売している。「クラテ工業株式会社第8期」の会計ファイルについて、＜付記事項＞に関する処理をおこない、損益計算書および製造原価報告書（税込表示）を作成し、下記の設問に答えなさい。（20点）

＜付記事項＞

1. 製造部門における以下の取引データが未処理である。

（単位：円）

日 付	借方勘定科目 補助科目	金 額	貸方勘定科目 補助科目	金 額
4月5日	[製]水道光熱費	37,400	普通預金 天神銀行	37,400
4月5日	支払手数料	220	普通預金 天神銀行	220
4月7日	[製]消耗品費	10,120	現金	10,120
4月13日	[製]賃借料	59,400	普通預金 天神銀行	59,400
4月13日	支払手数料	220	普通預金 天神銀行	220
4月17日	[製]通信費	46,240	普通預金 天神銀行	46,240
4月17日	支払手数料	220	普通預金 天神銀行	220
4月18日	[製]消耗品費	10,560	現金	10,560
4月26日	[製]地代家賃	85,800	現金	85,800
4月27日	[製]消耗工具費	17,600	現金	17,600
4月28日	[製]材料仕入高	695,200	買掛金 博多部品(株)	695,200
4月28日	[製]外注加工費	248,600	買掛金 宗像加工(株)	248,600

2. 給料手当は一括して計上されているが、そのうち2分の1が製造部門に配賦される。

3. 4月の社会保険料会社負担のうち、製造部門への配賦額は33,700円である。

4. 4月末の月次決算に必要な棚卸高は、次のとおりである。

製 品	206,000 円
原材料	216,000 円
仕掛品	69,400 円
商 品	228,000 円

＜設 問＞

以下1～5について解答欄に記入しなさい。

1. 当月の売上原価。
2. 当月の営業利益。
3. 当月の材料費合計。
4. 当月の製造経費合計。
5. 当月の製品製造原価。

利益計画

第3問 株式会社コブシ工業は、3種類の製品X、Y、Zを製造・販売している。それぞれ、材料Pと材料Qを消費し、製品別に工員が製品を加工している。また、同社の損益計算は毎月おこなわれており、月初仕掛品は無く、完成品はすべて販売されると仮定している。付記事項の条件にもとづき、Excelを活用して設問に答えなさい。(20点)

<付記事項>

1. 材料Pの単価は250円/kg、材料Qの単価は300円/kgである。
製品ごとの単位当たり消費量は下表のとおりである。

	製品X	製品Y	製品Z
材料P	3.5kg/個	3.0kg/個	4.0kg/個
材料Q	4.5kg/個	3.0kg/個	4.5kg/個

なお、月間の最大調達可能量は、材料Pが3,200kg、材料Qが3,600kgである。また、各材料費は変動費である。

2. 工員の賃率は製品Xの工員が550円/時、製品Yの工員が600円/時、製品Zの工員が500円/時である。製品単位あたりの作業時間は、製品Xが3.0時間/個、製品Yが3.5時間/個、製品Zが2.0時間/個である。なお、月間の最大作業時間は3製品合わせて延べ4,800時間である。また、工員の賃金は変動費である。
3. 製品の販売単価は、製品Xが12,000円/個、製品Yが10,000円/個、製品Zが14,000円/個である。また、月間の最大販売量は、製品Xが300個、製品Yが450個、製品Zが360個である。
4. 上記以外の製造原価(固定費)は月間1,800,000円、販売費および一般管理費(すべて固定費)は2,800,000円である。

<設問>

1. 3製品を合わせた全社の限界利益を最大にする3製品の販売量の組み合わせを求め、解答欄の(1)に製品Xの販売量、(2)に製品Yの変動費合計、(3)に全社の限界利益(円未満を四捨五入)を、それぞれ整数で答えなさい。Excelの「ソルバー」を用いる際に、解を表示するセルの値を整数とするための制約条件を定義し、解決方法の選択には「シンプレックスLP」指定するとともに、その「オプション」で「整数の最適性(%)」を「0」と指定すること。
2. 設問1の組み合わせのもとで、全社の損益分岐点売上高(円未満切り上げ)を計算したうえで、その安全余裕率を、%表示で小数点以下第1位を四捨五入して、整数で答えなさい。
3. 設問1の組み合わせのもとでの営業利益(円未満四捨五入)は、利益計画に当たって設定した目標営業利益より549,000円少ない金額であった。この利益計画に当たって設定した目標営業利益率を計算し、%表示で小数点以下第1位を四捨五入して整数で答えなさい。

第4問 立川工業株式会社では、製品Tについて来期の利益計画を策定している。下記の設問に答えなさい。(20点)

<付記事項>

1. 製品Tの販売単価は19,800円/個である。
2. 判明している製品Tの原価構成は下表のとおりである。

直接材料消費単価 (円/kg)	1,700
単位あたり直接材料消費量 (kg/個)	2
賃率 (円/時)	1,450
単位あたり直接作業時間 (時/個)	2
確定している固定費 (円)	600,000

3. 製造原価のうち、間接労務費は変動費部分と固定費部分からなる準変動費である。過去のデータから、最小二乗法(単回帰分析)によって変動費率と固定費を推定する。過去のデータは下表のとおりである。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
直接作業時間(時間)	68	78	66	71	63	56	60
間接労務費(円)	327,400	352,600	322,600	335,100	315,100	297,900	307,800

<設問>

1. 間接労務費について、付記事項のデータにもとづき、Excelによって(1)直接作業時間あたり変動費と(2)固定費を求め、それぞれ小数第1位を四捨五入して、解答欄に整数で記入しなさい。
2. 設問1の結果と付記事項にもとづき、損益分岐点販売量を求め、小数第1位を切り上げ、解答欄に整数で記入しなさい。
3. 設問1の結果と付記事項にもとづき、目標利益1,000,000円を達成する販売量を求め、小数第1位を切り上げ、解答欄に整数で記入しなさい。
4. 設問2と設問3の結果にもとづき、損益分岐点比率を求め、%表示で小数第2位を四捨五入し、解答欄に小数第1位までを記入しなさい。

設備投資の採算性計算

第5問 サクラ工業株式会社は、新製品製造の設備投資の意思決定を考えている。付記事項にもとづき、Excel を活用して設問に答えなさい。(20 点)

<付記事項>

- 投資対象の設備の耐用年数は5年である。
取得原価 50,000,000 円 (購入代価, 設置費を含む)
- 販売の見通し (各年度の販売量はその年の生産量と等しいと仮定する。)

	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度
単価 (円/個)	800	800	800	780	750
販売量 (個)	94,000	92,000	92,000	88,000	85,000

- 現金支出原価 (このデータは毎年変わらないものとする。)

変動費率 (%)	60
固定費 (円/年間)	14,000,000

- 減価償却は定額法 (残存価額は取得原価の 10%) による。5年後 4,000,000 円で売却できると見込んでいる。設備の売却に費用はかからないが、5年度に法人税率分のタックスシールドを考慮する。
- この設備投資にあたって 2,000,000 円の現金を予備の運転資金とする。予備の運転資金のうち2年度に 200,000 円, 3年度に 100,000 円, 4年度に 200,000 円, 5年度に 400,000 円を設備の修繕のために支出する予定である。
- 資金調達源泉は自己資金, 株式発行, 借入金のみである。資本コスト率は加重平均資本コスト率を用いる (加重平均資本コスト率は, %表示での小数第3位を四捨五入し, 小数第2位までの数値を用いること)。その内訳は以下のとおりである (株式発行の構成比率は各自で判断すること)。なお, 借入金の資本コストについては法人税率分の税制効果 (タックスシールド) を考慮すること。

	各資本コスト率	構成比率
自己資金	5%	20%
株式発行	20%	?%
借入金	10%	60%

- 法人税率は 20% とする。

<設問>

- 1~4年度のうち, (1) 正味キャッシュフローが2番目に大きい年度と, (2) その年の正味キャッシュフローを解答欄に記入しなさい。
- 5年度に当設備を売却した際の売却益または売却損を計算したうえで, その金額について支払うべき法人税額を計算し, 円未満を四捨五入して, 解答欄に整数で記入しなさい。
- 5年度までのキャッシュフローにもとづき, 下の下線付き文章の【(1)】内部利益率を求め, %表示での小数第3位を四捨五入し, 小数第2位までを解答欄に記入しなさい。また, 【(2)】内の「ア」と「イ」のうち正しいものを選び, 解答欄にその記号を記入しなさい。

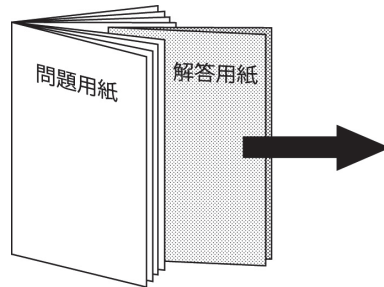
内部利益率が【(1)】%なので, この投資案は【(2) ア. 採用してもよい イ. 採用すべきでない】。

第47回コンピュータ会計能力検定試験 解答用紙

1 級

(令和5年12月9日施行)

- この解答用紙は、試験担当者の指示にしたがって、抜き取ってください。
- 解答は、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。



主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省

解答用紙は、試験担当者の指示にしたがって、抜き取ってください。

第47回コンピュータ会計能力検定試験 解答用紙

1 級

試験会場	
氏名	受験番号

得点

資金管理

第1問 (20点)

1		円
2		
3		
4		円
5		円

資金管理

製造原価

第2問 (20点)

1		円
2		円
3		円
4		円
5		円

製造原価

利益計画

第3問 (20点)

1	(1) 製品Xの販売量		個
	(2) 製品Yの変動費合計		円
	(3) 全社の限界利益		円
2			%
3			%

第4問 (20点)

1	(1)	円/時間	(2)	円
2				個
3				個
4				%

利益計画

--

設備投資の採算性計算

第5問 (20点)

1	(1)	年度	(2)	円
2				円
3	(1)	%	(2)	

設備投資の採算性計算

--

解答用紙は、試験担当者の指示にしたがって、抜き取ってください。

第 47 回コンピュータ会計能力検定試験

標準解答・採点基準

1 級

(令和 5 年 12 月 9 日施行)

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省

第47回コンピュータ会計能力検定試験 標準解答

1 級

試験会場	
氏名	受験番号

得点

資金管理

第1問 (20点)

1	8,065,460	円
2	11月, 12月	
3	1月, 3月	
4	8,791,800	円
5	18,562,190	円

(各4点, 2, 3はすべてそろって4点)

資金管理

製造原価

第2問 (20点)

1	3,353,200	円
2	427,220	円
3	700,200	円
4	540,800	円
5	2,803,000	円

(各4点)

製造原価

利益計画

第3問 (20点)

1	(1) 製品Xの販売量	220	個
	(2) 製品Yの変動費合計	1,237,500	円
	(3) 全社の限界利益	7,684,000	円
2		40	%
3		33	%

(各4点)

第4問 (20点)

1	(1)	2,486	円/時間	(2)	158,598	円
2					89	個
3					207	個
4					43.0	%

(各4点)

利益計画

設備投資の採算性計算

第5問 (20点)

1	(1)	3	年度	(2)	140,720,000	円
2					0	円
3	(1)	11.39	%	(2)	ア	

(各4点, 1は(1)のみ正解は0点, 3は(2)のみ正解は0点。)

設備投資の採算性計算